

第2回新湊みなとまちづくり戦略会議議事録

日時：平成18年1月27日（金）

午後3時20分～午後4時26分

場所：射水市新湊交流会館

事務局：出席委員、アドバイザー、事務局の紹介

これより、議事

委員長：みなさんこんにちは。新年に入りまして、そして新市になって初めての集まりです。今までやっていた延長ではありますが、あらためて確認して議論を行う必要があろうかと思えます。一つは新湊市みなとまちづくりではないわけですね。新湊まちづくりです。従って、当然私たちの視野は射水市になってから変わったわけではなくて、以前から射水郷全体を見ながら新湊のまちづくりをとという意図があった。これは、新市が発足してより一層期待が膨らむだろうと思えます。それと、戦略会議という名称、これも途中からそういう風になったわけですし、それを意味することはいろいろあろうかと思えます。単に意見を言って終わりということではなくてですね、それぞれができることを精一杯やりながら、あるいは横に広げながら、広報をしながら、そして実際にやってみようということでもあります。誰かにやってくださいという部分もあるかもしれませんが、まあ、そういった意味合いがあるかと思えます。すでに昨年の会議以降、学校関係でやれることは少ないんですけども、学生と一緒にまちのことを考えることをスタートして、いくつかの資料もあるかと思えます。射水市になってますます議論そして実行がうまくいくことを願っています。どうぞ会議へのご協力をよろしくお願いします。

それでは、事務局から要綱の改正についてちょっと不備な点、補充する点が分かったものですから、提案をするご説明をお願いします。

事務局：それでは、資料No.1のご説明をする前に、事前に配布した資料の確認をお願いします。まず、今のレジュメですね、それから資料No.1、No.2とございます。それと、第1回目の新湊みなとまちづくり戦略会議の議事録、そして海フェスタ富山の概要、世界のコンテナトップ50という資料、それとあとは新湊みなとまちづくり戦略会議に関係する新聞をコピーしたもの、それと委員のご協力を得まして、新聞記事にも載っておりますが、商船高専での生徒さんのプレゼンテーションの報告書をつけてございます。もし不足がございましたら事務局までお知らせください。

それでは、まず資料の1番目、「新湊みなとまちづくり戦略会議設置要綱の改正について」をご説明いたします。9月26日の第1回新湊みなとまちづくり戦略会議で委員の皆さんに設置要綱についてご了承を得て

いるわけですが、先ほど部長も申しましたとおり、射水市の発足に伴いまして、旧新湊市の企画情報課から庶務を担当する所属が射水市役所のみなとまちづくり班に変わりましたので、所管の変更を行うこと、それが第1点でございます。もう1点は委員長に事故又は出席できないという事由が発生した場合には、委員がその職務を代行できるように関係条項を加える、整えるものでございます。裏面を見ていただきまして、網掛けをした部分が追加又は変更した部分でございます。読み上げさせていただきます。「第4条委員長に事故がある場合、又は委員長が欠けた場合においては委員長があらかじめ指定する委員がその職務を行う。」それと「第6条戦略会議の庶務は射水市みなとまちづくり班において処理する。」以上が変更、追加の部分でございます。

委員長：どうもありがとうございました。このように変えたいと思います。なにか意見ございますか。これは皆さんお分かりであろうと思いますので、No.1についてはご了承ということでお願いします。

次は、資料2を参考にしながら、今後の取組について事務局から提案願います。

事務局：それでは、資料2をご説明させていただきます。

まずは、これまでの経過でございますが、第1回戦略会議を平成17年9月26日に開催しております。みなとまちづくり方策に関する概要の説明、それと問題提起、意見交換そして現地視察を行っております。第2回目の戦略会議が今日というわけなんです、第1回目で第2回目の戦略会議でどういったものをすればよいかということで話し合われた結果、講演会をすればどうかという話が出ましたので、本日は講演会というものをメインにさせていただいて、開催させていただいております。

今後の日程でございますが、第3回目の戦略会議を今年の4月中に開催したいと考えております。それで、今日委員の皆様にご検討いただきたいのは、内容がこれでよろしいか、事務局からの提案でございますが、まず1点目は案内板整備に向けた手法の検討、こちらは海王丸パーク等にお越しになる年間80万人から90万人にも及ぶ観光客の市街地への誘導の案内版を事務局としてはイメージしております。そういった案内板整備に向けてどういった方法で進めていけばいいのかということ、第3回の戦略会議で委員の皆さんに話し合っていたいただきたいと考えております。それと、もう1点は、みなとまちづくり方策の中で示されております東埋立地、海竜町への企業の研究施設を誘致する、そういった取組を今後どういった方法で進めていけばいいのかということを検討していきたいと考えております。そして最後に1点目の案内板の整備に関する手法の検討ということに関連しまして、じゃあ実際現地はどうなっているのかということ一度委員の皆さんに見ていただく必要があるんで

はないかということで、現地視察を考えております。その他の取組といたしましては、今後、広報に関する取組、委員の皆さんに広報をお願いしたいということは、第1回目の戦略会議でもいろいろお話し合いになられていたと思います。事務局といたしましては、広報いみず、市報の3月号で「新湊みなとまちづくり方策」と「臨港道路富山新港東西線」といったところで広報担当者のほうで特集を組んでいただける予定にしております。また、事務局関係といたしましては、市内の各教育施設、今までは新湊という地域でしたが、射水市の誕生に伴って、射水市の教育施設にも、こういったみなとまちづくりを広報、宣伝していく必要があるのではないかと考えております。こちらも検討していきたいと考えております。また、委員各自で、皆さんの所属する団体、教育施設であり団体であり、みなとまちづくりにどういった面で協力できるのか、またそういった関係団体にどういった方法で広報できるのか、といったことも検討していただきたいということで加えさせていただきました。

以上でございます。

委員長：どうもありがとうございました。一応事務局が、こんなような形でということの説明していただきましたが、委員の皆さんからのこれについての意見、あるいは自分たちのところではこんなことを考えていると、情報の交換をしたほうがいいと思うんですが、意見あるいは情報提供がありましたら、また、組織だったものでなくてもよろしいので、意見交換できればと思いますが。

委員：前回もいろいろな提案をしていたわけですが、そういったものはどこでどうなっていくのか私どもは分からないんですが。何とかなるのかなという思いもあって、例えばこの議事録にも載っておりますが、都市計画道路をふってはどうかとか、いろんなことをいくつかいっておったんですが、具体化されていく、どう現実に向かっていくのか、そのところはどくなっていくのかなと。

事務局：委員の皆さんの提案とかそういったものについては、戦略会議の中で出た意見をどこの部署が担当すべきか、それをきちっと私の方からお伝えしていきたいと考えております。

委員：わかりました。

委員長：また、予算を伴うものもありましょうし、いろんな機関が関係するものもあろうと思いますし、出た意見でこういった方向で行っているというものが出てきたら私らのアイデアで、やれないことを言ってもしょう

がないので、と思います。ほかになにかございますでしょうか。

委員：私も第1回から参加させていただいて、それ以前は分からないけれども、事務局から出されました第3回の予定の中の東埋立地への研究施設の誘致とありますが、過去にこういった研究施設を誘致するという議論があったのでしょうか。それとも今から新たにどこかの研究施設を誘致するんだということなのでしょうか。まったくさらの状態ですか。

事務局：みなとまちづくり方策の中で、こういったものがあればいいなといったものをまとめたもので、それを実現するためにはどうするかということをお話し合っ行ってきたいと考えています。

委員：それに関連するかもしれませんが、今富山新港の客船バースに、私は常々思っているのですが、海洋高校の練習船が泊まっていますが、客船が入るとシフトをしたりしているんですが、それに関連して、私どもの臨海実習場というのが堀岡のほうにあります。それで、教育施設の練習船が二つありますので、ああいったものを一元化し、東のほうに、海竜マリンパークの方に集めて、海洋高校の練習船、商船の船そして関連する研修センターとかですね、なんか発展的にもっと考えられるのではないかなど。文部科学省とか富山県の教育委員会といった枠組みで考えるのではなく、なんかもっと前向きに考える時期が来ているのではないかなどというように思っているんですけどね。そうすることによって、客船バースあたりが、もっともって違った使い方ができるんじゃないかなど、あそこに一つポツンと泊まっているのに非常に違和感を感じるんです。ですから、研究施設を誘致するというのも大事ですが、既存のそういったものをどうするかということも並行して考えなければならぬと思います。

委員長：船を置く場所としては、客船バースは年中客船が入っているわけでもないですし、その有効利用も、商船高専の船と海洋高校の船がいつも並んでいけばいいのですが。

委員：若潮丸の岸壁もできてから相当経過している。一度工事はしていますが。

委員長：それがいいということであれば、商船も文部科学省のほうへ予算を上げたりして。

委員：行き場のない話かもしれないが、一つにまとめてやれば、かなりのものになるし、そういった時代がやってくるかもしれない。

委員：別々にもっているよりも、もっといいもので1つにすればいいんじゃないかと。ですから、稼働日数も海洋高校自体少ないですし、うちなんかも本当に少ないですから、射水市民に動く教室というか動く役所というか、そういった発想が必要ではないかと思います。

事務局：アドバイザーの方から今の意見に対してご意見ありましたらお願いします。

アドバイザー：平成15年に旅客船バースを供用開始しております。旅客船バースを商船高専の船の係留場所にできないかという話は将来的なことだと思いますが、他の係留場所や運用面なども含めて検討していかなければならないと思います。

委員長：東埋立地への研究施設の誘致というのは、学校関係もそうなんです、背後地の企業の研修施設もどんどん入っていただければいいなという希望があります。そのために、国土交通省北陸地方整備局伏木富山港湾事務所さんが一生懸命動いていただき、今度初めて、背後地の企業の会合をやられるということで、そこでもいろいろな意見が聞ければいいなと思います。いつ開催でしたか。

アドバイザー：来月2月15日です。YKKさんや中越パルプさん、助野靴下さんといった港湾をご利用いただいている県内企業15社のみなさんに集まっていたいただき、産学官の「港湾利用者意見交換会」を開催する予定です。本日出席している皆さんもこういった場に出ていただいて、いろいろと話を聴き、また聞きたいことを聞いてくださればいいのではないかと思います。

委員長：そういうことも進んでいるということで、それと、それに絡んで皆さんに利用されたほうがいいのではと思うことが、昨年、富山新港を含めて北陸地方整備局が北陸地区の港湾のビジョンを作ったんです。もちろん、東西埋立地のことも載っております。ただ、今までのものと違って、ロシア語、中国語、ハンダ語、英語といったように全部作成しました。私が提案して、海外へ行ってもどこまで通じているのか分からない気がしたので、その国の言葉で説明しないとということで、すぐに作っていただきました。とてもいいものですので、ロシア、中国、韓国へ行かれるときは持って行って、富山新港はこんな港だということを向こうでPRして、利用につなげると。私はすでに利用しています。特に商船高専の学生の場合1か月行っていますし、私の学部でもこの3か国に送っていますし、留学生に渡して若干宣伝していただいております。皆さんも訳すとなれば大変ですので、部数の関係もありますがご相談されればと

思います。そういう情報を流しておきます。それから、わたしの方では、市役所から来ていただいて、射水市ではこういったまちづくりに積極的に関わっているというのを最後の時間に学生に提供して、学生にも考えてもらおうと思っております。それで、いいものができれば、まちのあり方についてご報告できればと思っております。そのほかに、私は附属小学校の校長を兼ねているものですから、総合学習で、富山市の商店街がたまに募集するんですけど、子供に対して各クラスがまちづくりで応募しなさいというパンフレットが配られます。これに応募して一つのクラスが子供なりに調査に行つて総曲輪の再生計画みたいなものをずっと総合学習で取り上げて、これが出来上がると、商船高専の報告書とよく似た感じですね、子供なりの視点、親の意見も入っているんですけど、そうすると意見をいうために親と行かなければならないですから。ですから、小学校、中学校の総合学習が始まって、私も先生に射水の船を使った総合学習についてお話しています。

委員：それと、研究施設の中で富山のエコタウンがありますね。ああいったものは今補助率も多いし、一番いいのかなという思いで見ているんですが。

委員長：富山市のエコタウンですね。プラスチック、自動車なんかですね。

委員：まだいろいろなものを計画されているんじゃないですか。時代の要請にあっているから、補助もかなり大きいです。半分ぐらいは出るんじゃないですか。環境問題に対しては補助も大きいので、研究施設をやりながら現実はどうやっていくのかということも一つの手かなと思います。

委員長：今朝の新聞にトヨタ自動車の中古車の販売とリサイクル輸出に積極的に乗り出すと、すばらしいことだと思います。年中ロシアへ中古車が行っていますが、こういう様に乗り出してくると受け皿的にもいいかもしれないですね。

委員：今、中古車はいいものしか売れません。

委員：単価的に言えば150万円くらいです。射水市全体で150社くらいいまして、商売の金額が全体で1千億円くらいです。市の公共事業よりも大きい金額になっています。こうした産業が内陸であるということも認識が必要だと思います。

委員長：まさに研究しなければならないことだと思います。

委員：今日の話からして、中古車業者を大きな場所に集めて、本当のバザールみたいなものを作る、やり方次第でなんでもできる。

委員：ブラジル人、パキスタン人、ロシア人が300人いるといわれているが、実質的には1100人くらい、4倍近くいるんじゃないかと思う。パキスタンの人やロシアの人たちに海王丸パークに集まってもらって、賑わいを創ってもらふフェスタでもしていただければという話もあがっていた。

委員長：ほかに、なにかご意見はありますか。

委員：今回始めて出席させていただいたのですけれども、事務局として市民参加型とは、こういったイメージで考えていらっしゃるのですか。

事務局：事務局のイメージで言えば、何かやる前にワークショップを開いてみたり、各種団体からの参加であったり、青年会議所であれば、こういった考えだという提言も市民参加型の一つだと思いますし、よく声を聞くということが第一かと思いますが、こういった市民参加型の手法についても、こういった場でどういう方法がいいのか検討していければいいなと事務局で考えている段階です。

委員長：また、いいアイデアがあれば次回にでも提案していただければと思います。一応、今後の日程、その他の取組はこのように考えていますし、先ほど出たことについてですね、逐次、今後意見交換をしていくということですから、またそれぞれお考えをお聞きください。また、近くの人と議論をしたりしていいご意見を期待しております。また、何かこの件で出てこれば時間が許す限り活動して行きたいと思います。いったん、今後の取組については皆さんの心に留めていただきたいということで、次に進みますが、今年はさらに大きな海・港を舞台にした行事が進められているようですので、7月15日から9日間「海フェスタとやま」という行事が行われる予定になっております。そういうことで、県の担当者の方からご説明をいただきたいと思います。

海フェスタ担当者：今日は「海フェスタとやま」について、こういう機会をいただきましてありがとうございます。資料に基づいてお話させていただきますが、恐縮ですが、座って説明させていただきます。

お手元に資料がっております、「海フェスタとやまの概要」という数ページにわたりますが、そちらのほうをご覧ください。

目的につきましては、これは海の日にちなんだ全国主要港湾持ち回りの全国イベントであるにご理解いただきたいと思います。主催については海フェスタ実行委員会、知事を会長に100以上の団体で構成いたし

ております。開催時期につきましては、今ほどご紹介いただきましたとおり、7月15日から23日までの9日間となっております。開催場所につきましては伏木富山港、富山新港、伏木港、富山港の3港と魚津港でして、その関係市4市で行います。その港湾と沿岸部を中心として県内全域で開催したいと考えております。

基本理念につきましては、後ほどご説明させていただきます。事業の構成ですが、式典があつて展示会があつてセミナーがあつて、いろいろな船舶の一般公開があつて、マリンスポーツがあつて盛りだくさんのイベントをやっていくということでご理解をいただきたいと思ひます。全体事業費につきましては、今予算要求中ですが1億2千万円を計上しております。

次のページに移らせていただきます。主な特徴みたいなものを抜き出しています。特色ということですが、一つには「海や港や船の全国イベント」です。イベントについては「海や船に関連するものであればOKです」ということです。細かな制約はございません。いろいろな協賛事業等を募集しております。分散型・集合型のイベントということで、一つは県内複数の会場になる分散型のイベントです。また、後ほど個別のイベントを記載してございますが、個々のイベントの集合体という格好になっております。一体性をどう保っていくのかが弱点であり、スタンプラリーをやりまして4港の連携やいろいろな連携を図って行きたいと思ひております。また参加交流型のイベントを目指そうと思ひております。啓発普及型のイベントであれば、何でもOKであります。協賛事業ということでNPOも対象にしておりまして、いろいろ募集中でございますので、皆さんのほうでもぜひ参加をご検討いただきたいと思ひます。次に県からの情報発信あるいは国内外との地域間交流をやってみたいと思ひております。国内各地からの参加者の皆さんに県の魅力をPRする、あるいは資料のほうにも付けさせていただきましたが、特定重要港湾昇格20周年ということで、別の資料にもありますが、釜山新港ができた、あるいは東海北陸自動車道が近く貫通しそうだということで、やはり港をめぐる情勢が非常に変わってきている、それは時間があれば別の資料でご覧いただきたいと思ひますが、非常に転機にきており、この際やはり港を中心に全国にPRしていききたいと考えております。外国人もたくさんいらっしゃいますので、国際色豊かなものにしていききたいと考えています。次に既存イベント・施設の活用に努める。県内には海や船にちなんだ観光施設がたくさんありますので、そういったものも再認識していただくような仕掛けを考えていきたい。

重なりますが、経緯なんです、昭和61年から続いている持ち回りのイベントであります。通算21回目のイベントでありまして、「海フェスタ」になって何が変わったかというのは、簡素化されております。そういった中で最近開催は沖縄県、福岡市、神戸市、これは政令指定都市と

ということで開催されております。近隣の県の開催状況は日本海側の主要なところでは開催されております。

あとは、重要なところを説明させていただきますが、記念式典と祝賀会として、通例では秋篠宮様のご臨席を賜っており、富山国際会議場又は富山市内のホテルで開催を予定しております。開会式につきましては、射水市で予定しております。また、展示会については、海の総合展ということで、海王丸パーク内の日本海交流センターで海事団体さんの活動内容を紹介させていただきたいと考えております。セミナーは、特定重要港湾の指定20周年ということでシンポジウムをしてみたいと、あるいは高岡市で広域連携フォーラムということで、愛知県あたりも視野に入れた連携フォーラムを企画しておられると聞いております。船の一般公開がひとつの柱になっています。新聞にも出ておりましたが、航海訓練所から海王丸と銀河丸が来る予定になっております。それ以外の船も来る予定になっていまして、港の岸壁が満杯状態になるのかなというところですね。それ以外に関連施設の公開であるとか、マリンスポーツも記載してあります。このマリンスポーツはセーリング連盟さんや商船高専にお世話になっておまして、いろいろな事業をしていただく予定になっております。海や港のフェスティバルということで、ひとつはメイン会場という位置づけかは別として「マリンフェスティバル in 海王丸パーク(仮称)」ということで、期間内に仮設ステージを組みまして、またアミューズ系のものも集めて、自作船競漕など盛り上げていきたいと考えています。それ以外に、それぞれの港の祭りにつきましても皆さんに検討いただいているのですが、会期期間内にさせていただくということで調整をいただいております。各港におきましても市が主体になられて盛り上げていただくようになっております。

また、環境保全や交流、あるいは協賛事業として、4市以外にも滑川や朝日、氷見、入善といった海岸線沿いの市町村にも協力をいただいて、全県的な盛り上げを図っていきたいと考えております。それと、今の進捗状況なんですけど、17年の7月と11月の2回、実行委員会を開催しております。それで、近く県・市の予算が確定しまして、3月には個別事業の内容及び予算を確定したいと思っております。4月には第3回総会を開催してその細部についてご承認をいただき準備を進めて、7月の本大会に望みたいと考えております。

次にマップが付いておりますが、県内一円で海岸線を中心にやっていくようなイベントを考えているということで、ご理解いただきたいと思います。それと、参考資料といたしまして、過去の海フェスタはどんなことをやっていたのか掲載させていただいております。大体は集合型のイベントになっていると思います。それとは別に「世界の主要コンテナ取り扱い50港」という両面でコピーした資料をご覧くださいと、中国や韓国にハブ港があるという状況なんですけど、次のページで黒く強

調してありますが、先ほど申し上げましたが、東海北陸道が貫通することによって流れが変わる、最後に鬼頭港湾局長が「ただ北陸のほうに来るのか、逆に伊勢湾の方に流れていくのかは、今後の港の工夫次第ではないか。」とおっしゃっています。それを具体的にどうなるのか例で示したものが28ページの資料で、ハブ港が釜山ということで、環日本海側からそこが近いということで、主要港に行くのに韓国経由にした場合はコストダウンできる可能性もでてくる、だから、当港の利用価値がますます増えるんじゃないかというようなことを港湾協会がだしておられる港湾という雑誌の中で紹介されておりますので、ご参考までに紹介させていただきました。以上です。

委員長：どうもありがとうございました。この機会に質問があればどうぞ。

委員：「海や港のフェスティバル」で、マリンフェスティバル in 海王丸パークというものが企画されているみたいなんです、この中にフリーマーケットやゲームテナントみたいな形で県内のいろいろな団体、私どもの国際交流協会やほかのNPOさんたちが、テントを出すとかそういうことは可能なんですか。

海フェスタ担当者：テントは設営したいと思っておりますが、その主体をどういった形にすればいいのかということは今はまだ白紙です。ただ、せっかくやるんですから、極力あまりお金のかからない方法で皆さんに楽しんでいただけるような仕掛けをぜひしたいと考えています。

それで、いろんな参加呼びかけをしているんですが、細かなフリーマーケットであるとかステージへの参加するというものにつきましては、3月が終わった段階で募集をかけたいと思っております。

協賛事業につきましては、大きなイベント小さなイベントがありますが、地元単位でされるものについては、市のほうでとりまとめいただいているんですが、そういったものについては、基本的に3月末までにはまとめたい、ただ、それ以降の参加については随時受け付けていく方向になると思います。以上であります。やはり、参加したいというお話は結構いただいておりますが、若い団体さんの参加が今ひとつでございますので、ぜひご検討いただければと思います。

委員長：よろしいでしょうか。それでは海フェスタについては以上で終わりたいと思います。一応これで、今日は講演会がありましたし、その後の会議ですので時間的にはそんなに取りたくないのですが、その他に事務局のほうから提案があればお願いします。

事務局：皆様のお手元にお配りしてございます議事録の取り扱いについてお知

らせいたします。第1回目の戦略会議の時に議事録をお名前を伏せて公開するという事で委員の皆さんに了承を得たかと思ひます。今はお名前を書いてごひます。ご発言の部分の確認をしていただきまして、これでは困る、こういう思ひではなかつたんだという部分がありましたら、来週末までご連絡ください。了承を得た段階で名前を伏せてホームページ等で公開したいと考えておりますので、よろしくお祈ひします。

以上でござひます。

委員長：そういうご提案ですが、意義はござひますか。多くの人に知ってもらおうということが中心で、名前はともかく内容、こんなことをやっているということの提案です。よろしいですね。では、そういうようにしていきますのでよろしくお祈ひします。せつかく会議に来ていただいているので、何かこの機会にいつておきたいということがありましたら、どうぞ。

委員：国土交通省北陸地方整備局伏木富山港湾事務所から来ていらつしやいますので、大橋の進入路の件なんです、海王丸パークに向かつてきて、上がる橋は分かるんですが、海王丸パークに来た人がどうアクセスすればいいのかちょっと迷うんじゃないかなという思ひで見ているんです。その辺を何かしないと、このままでは橋を上がつてしまつて、海王丸パークに入れないうんじゃないかという思ひで見ているので、どうなのかお聞かせください。

アドバイザー：交差点のほうについては、現在、検討中ござひます。当然、管理面については県のほうで、あと警察から標識に関する指示もあるでしょうし、そういったもろもろのことは現在進行中ござひます。橋というのは365日通ることができればいいんですが、ものすごい風が吹いたらクローズしなければならぬ状況もあるわけですね。これをどのタイミングでどこの標識でお知らせするのか、といった話もあるわけです。そういったこともありますので、今委員がおつしやつたことも含めて現在検討中ということなんです。

委員長：ほかにどなたか。

委員：私は新湊商店連合会で会長をしています。今、新湊地区中心市街地の活性化ということで、いろいろな会合に出ているところですが、実際に海王丸パークに年間80万人の観光客が来ているということで、市内に少しでも流入できないかという意見もあります。実際、商店街自身は今まで観光で生活してきたわけではないので、いきなりそういう問題が出てきて、そして過疎も進んで空き家もたくさんあり、かなり落ち込んで

いるという状況です。その中で、少しでもまちに賑わいを持たせるために、内川のフェスタとかいろんなことを計画しているのですが、少しでも賑わいを持たせるということはどういうことかということ、たくさんの人に来てもらう、定住人口を増やすとか、いろいろな定義がありますけれども、実際になにかから始めていけばいいのかということをおもったら、小さなことからしかできないのではと思っています。その中で自分なりに商売は生活が基本ですから、その先の観光など新たなことを起こすということに、なかなか体をかけて進めないというのも現状です。その中でボランティアや市民の協力が必要なわけです。どのように市民の皆さんに伝えて啓発していくかということも大事ではないかと思っています。TMOやNPOでやっているんですが、これからだとは思いますが、少しでもアドバイスがあれば幸せだなと思っています。まちの中に急に人を入れるといっても、どのように入れるかは交通のアクセスの問題もあるでしょうし、駐車場の問題もありますし、課題がたくさんあって本当にどうすればいいのか難しい問題ですから、小さなことから時間をかけてということかと思っています。今、新港に大きな橋ができて観光という中では少しにぎわってくるということで、少しでもまちを盛り上げるためにできることがあればなと思っています。今後またいい意見をお出しくださいあればありがたいと思います。

委員長：まさに、この検討を進めてきたのは、港が栄えて肝心な人々が住んでいるまちが、商店街が寂れてしまっただけでは意味がないわけですから、それをどのように結びつけばということ、橋だとか、それから海王町と海竜町をきっかけにしながら内川に結び付けて、なんとか今おっしゃった商店街の活性化のほうに皆さん念頭にあって進めてきたわけですから、また次回からどんどん問題提起というか、お知恵拝借で出して、皆さんで考えましょう。私らにとっては商店街がどんなふうを考えて、どんなふうに進めてきたのかということも、そんなに分からないですよ。

委員：実際のところは、跡継ぎがない店、もうやめてしまった店など商店街のケースは難しいなど。転出して新たにやろうかという人も多いと思いますが、そこで留まっている人は10年もしたら店がしまっただけ、年寄りばかりだなという私の感じでは。

委員長：そういう意味では、議論のテーマとして、ぜひまたここでやりたいですね。皆さんも考えてみてください。

委員：関連することかもしれませんが、午前中授業がありまして、新湊が射水になりましたが、その中で新湊ブランドと射水ブランド、今日の講演

の中でもありましたけど、確かに氷見の寒ブリとか氷見うどんとかは出てくるんです。ところが、40人近くいる学生の中で新湊出身の生徒は7~8人いるんですが、新湊のブランドの中で有形・無形に関わらず何かイメージするものを言ってくださいといったら、1人も出ないんですよ。イメージがつかない。これがやはり私は、今までの海王丸誘致から20数年経っているわけなんですけど、なぜそうなのかと考えてみますと、一つは市民一人ひとりの盛り上がりというか、本当にまちを活性化したいのかということがお父さんお母さん、おじいさん、おばあさんからあまり伝わってないんじゃないかなと。というのは、20年前を振り返ると海王丸を誘致するんだといって、本当に市民が積極的に参加したかということ振り返ると、これは参加していないんですよ。そんな来るはずがないというところからスタートしているんです。船が来たら市の税金をいっぱい使わなければいけないというのが地元の声なんです。このとんでもない発想、夢物語が今実現化して新湊の核になっているんです、まちづくりの核になっているんです。だから、今市民一人ひとりがもっと、射水市になって水際から内陸のほうへ入ってきている中でもっと射水市のブランド、例えば海から内陸にかけて統一性を持ったもので考えなければならぬ時期なのかなと考えているところです。若い子たちが自分が住んでいるところをイメージできない、非常にさびしいんじゃないかなということを感じました。

委員長：ぜひ、今言われたことは、学生に書かせたものをお配りしてありますので、目を通して次回の議論に役立ててほしいと思います。また、今後こういう資料があれば、どんなものでもいいからここに出して、いい放題の中でも、ぜひ夢の実現そして商店街の活性化に結びつくようにしたいと思います。

かなり時間も過ぎましたので、このあたりで閉じたいと思います。今日出たものを念頭に次回に備えて活動あるいは意見の整理ということをお願いいたします。以上で事務局にいったんお返しします。

事務局：委員長、ありがとうございました。委員の皆様もありがとうございました。次回の会議は4月に予定しておりますが、できるだけ早く案内をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。